

令和5年度（2023年度）事業計画（案） に関する骨子について

私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



これまでの「中期経営計画ビジョン」の歩み



【2016.4－2018.3 方針】

- (1) 地域社会への貢献
- (2) 安全かつ専門的技術の提供、
- (3) 生活の継続に向けた取組み
- (4) スタッフがやりがいを感じる職場づくり



【2018.4－2020.3 ビジョン】

KAIGO(介護)の質の“見える化”を目指して



【2020.4－2023.3 ビジョン】

“KAIGO×テクノロジー”

～超高齢化社会・生産年齢人口急減社会にあっても、地域の皆様に
高品質のサービスをお届けするために～



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

中期経営計画ビジョン（2023.4－2026.3）の策定

そして、【2023.4－2026.3 ビジョン(案)】

革新と創造 – Innovation & Creation –

- 1 将来に向けて人的パワーを蓄える
- 2 働きやすさと働きがいの向上
- 3 「人」と「DX※」が完全調和した介護福祉サービスの提供：
超高齢化社会への対応、介護福祉サービスの質向上
- 4 地域が必要とする福祉サービスの創設：地域共生社会の実現
に向けて

※デジタルトランスフォーメーション(DX)：

環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、介護サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、風土を変革すること（参考：「DX推進指標」における「DX」の定義（経済産業省））



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

1. 将来に向けて人的パワーを蓄える 2. 働きやすさと働きがいの向上

3. 「人」と「DX※1」が完全調和した介護福祉サービスの提供 4. 地域が必要とする福祉サービスの創設

※1 環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、介護サービス、ビジネスモデルを革新するとともに、業務そのもののやり、組織、プロセス、風土を革新すること（参考：「DX推進指標」における「DX」の定義（経済産業省））

これまでの働き方やサービスの提供方法を変えていく必要があるのですね



大きなテーマ「介護サービスの質向上」と同時に「負担を軽減する」

Ⅱ. 社会課題に向けた取組への展開

- ①ICT(情報通信技術)機器を活用する
- ②介護ロボット※3や介護機器を活用する
- ③外国人介護人材を雇用を進める(目標:全介護職員の10%)
- ④高齢者、障がいをお持ちの方、短時間又は少ない日数であれば勤務可能な方の雇用を進める(目標:全職員の25%)
- ⑤科学的介護情報システム(LIFE)※4のフィードバックを活用する
介護予防教室を開催する
- ⑥日常の取組や情報をホームページなどで公開、広く発信する

※3 厚生労働省ホームページ：ロボットの定義とは、以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システム・情報感知(センサー系)・判断(知能・制御系)・動作する(駆動系)

※4 厚生労働省ホームページ
○介護サービス利用者の状態や、介護施設・事業所で行っているケアの計画・内容などを一定の様式で入力する、インターネットを通じて厚生労働省へ送信され、入力内容が分析され、当該施設等にフィードバックされる情報システム
○介護事業所においてPDCAサイクルを回すために活用するためのツール

I. 課題(地域の社会課題)

(1)75歳以上の方の人口が急増

(2)働き手世代が急減

2020.6→2030(推計)

75歳以上人口・・・約35%増!

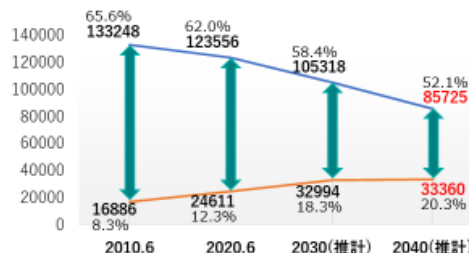
生産年齢人口・・・約30%減!

75歳以上の方は、65～74歳までの方と比べて、要介護認定率が約8倍※2



鈴鹿市の人口動態

—生産年齢人口 —75歳以上人口 (各年の%は総人口に占める割合)



【参考】2010年、2020年：鈴鹿市ホームページ/2030年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30(2018)年統計)」

※2 内閣府「令和4年版高齢者白書(全体版)」：65～74歳と75歳以上の被保険者について、それぞれ要介護、要介護の認定を受けた人の割合を見ると、65～74歳では1.4%、2.9%であるのに対して、75歳以上では8.8%、23.1%となっており、75歳以上になると要介護の認定を受ける人の割合が大きく上昇する(表1-2-2-6)

Mind of Suzuka-greenhome “とりあえず、やってみる”



ホーム・事業所開設 30 周年



特別養護老人ホーム、併設短期入所:

1993年(平成5年) 5月1日開設

併設デイサービスセンター:

1993年(平成5年)10月1日開設



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

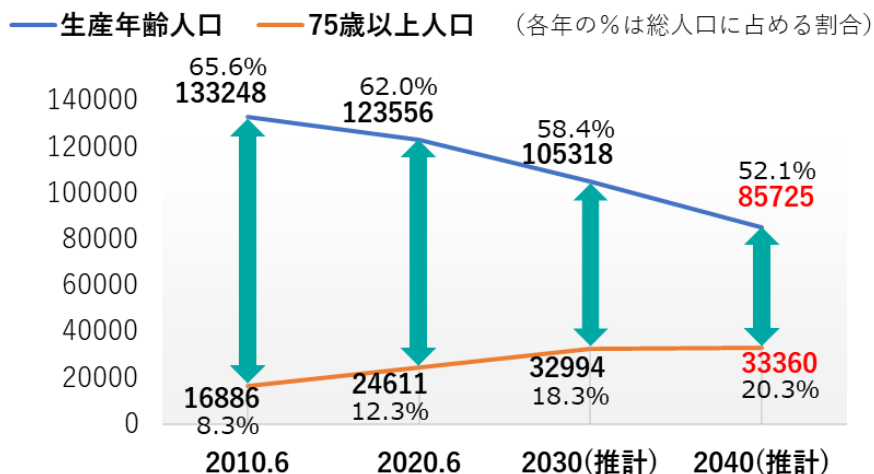
1. 人口動態について

(1) 超高齢化、生産年齢人口急減社会の到来



- ・2040年に向かって、75歳以上人口が急増
(約8,800人増(約35%増)との予測)
- ・65歳～74歳までの方の要支援・要介護認定率は4.3%
- ・75歳以上の方の同認定率は32.1% との予測

鈴鹿市の人口動態



【参考】2010年、2020年：鈴鹿市ホームページ／2030年以降：国立社会保障・人権問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H30(2018)年統計)」

- ・一方、生産年齢人口が急減
(約38,000人減(約30%減)との予測)
- ・何らかの手段によって、需要と供給の差を埋める必要性
(≡社会課題)がありますね



☐75歳以上の方は、65歳～74歳までの方と比べ、要支援・要介護状態となるリスクが約8倍とのデータがある(参考:内閣府「令和4年度高齢社会白書」)



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

1. 人口動態について

(2) 鈴鹿グリーンホームの周辺地区の状況

鈴鹿市の状況

令和4年3月31日現在

(出典：鈴鹿市ホームページ)

鈴鹿市全体 総人口：196,911人 65歳以上割合：25.7% 75歳以上割合：13.0%

	人口	65歳以上割合	75歳以上割合
深伊沢地区	1,961人	31.9%	15.8%
久間田地区	2,019人	33.9%	18.5%
石薬師地区	6,133人	32.8%	17.4%
加佐登地区	5,138人	26.3%	13.9%
鈴峰地区	3,388人	31.8%	15.8%
椿地区	1,564人	市全体より、 約6%高い 35.2%	市全体より、 約4%高い 19.0%
庄内地区	2,072人	38.8%	19.1%

7地区計 総人口 22,001人 65歳以上割合 31.9% 75歳以上割合 16.6%

・2022年3月現在の
当ホーム周辺7地区の
65歳以上割合平均は、
31.9%で、
鈴鹿市全体の平均より
約6%高い状況

・同 75歳以上割合平均は、
16.6%で、
鈴鹿市全体の平均より
約4%高い状況



・当ホームの周辺地区では、高齢化の進展がすでに鈴鹿市全体の
2030年に近い状況



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

2. 介護人材の確保



介護が必要な高齢者が増加し、生産年齢人口が急減していく中、従来の人材確保や介護福祉サービスの提供のあり方では、難しい場面が生じてきます

そのため、新たなサービスの担い手の確保や離職防止、業務をアシストしてくれるものの導入が必要



・情報通信技術(ICT)の活用

・介護ロボット・機器の活用

上記の2項目は**組み合わせる**、新たな機器の実装について**創造**する(現段階の目標:**IoT化**)

・外国人介護人材の雇用推進(目標:全介護職員の10%)

・高齢者等の雇用推進

間接的業務等:いわゆる業務切り分け(「**細分化**」と「**カスタイズ**」を図る、目標:全職員の25%)

・日常の取組や情報を**ホームページなど**(主にデジタルを用いる)で公開、広く発信する



(出典:介護ロボットポータルサイト)

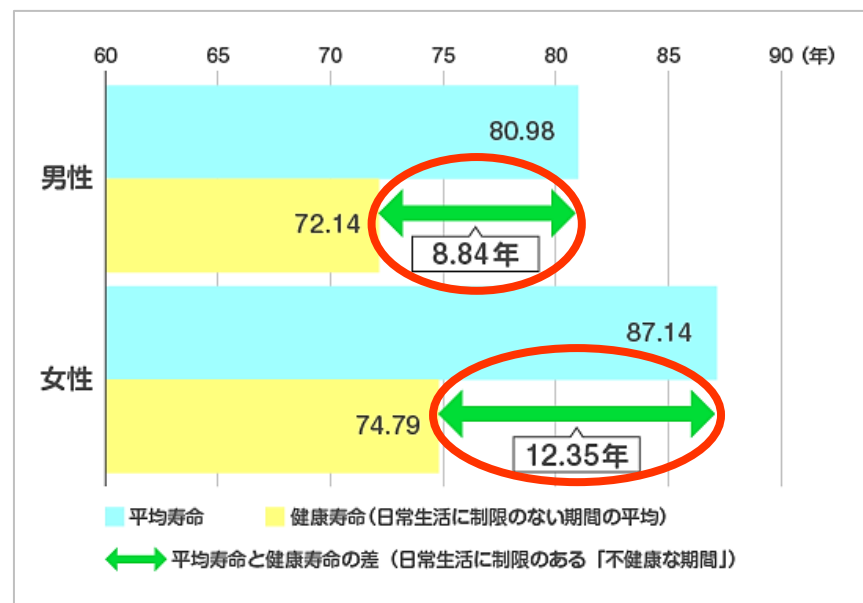


社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

3. 介護予防（健康寿命延伸）

超高齢化・生産年齢急減社会を乗り切っていくためには、介護人材確保や生産性向上に向けた取組だけでは不十分！



(厚生労働省「e-ヘルスネット」)

そのため、要支援・要介護認定を受けていないご高齢者への介護予防（健康寿命延伸）の展開を進め、生産年齢人口減との需給差を縮めていくことが重要



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

3. 介護予防（健康寿命延伸）

令和4年度(2022年度)から、鈴鹿市フレイル予防プログラムディレイアクション事業を開始



事例
02

デイサービス

お元気な高齢者へのフレイル予防

1. 課題
 利用者の目線：
 「いつまでも自分でできることは自分でしたい」
 職員の目線：
 「介護が必要な高齢者が急増すると、今の職員数では介護サービスが行き届かないかも」

2. 健康寿命延伸プログラム

① 体力測定※デバイス **モフトレチェック**
リアルタイムでレポート出力！

② トレーニングマシン **HURスマートタッチ**
レポート出力可

③ 体幹・バランストレーニング **レッドコード**

④ 機能訓練指導員による **歩行訓練・手技**

⑤ 軽体操 **モフトレ**
リアルタイムでレポート出力！

⑥ オンライン **音楽レク**

⑦ 自宅での **自主トレ・YouTube体操**

⑧ 専門職による口腔・栄養などの教室

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

ウェアラブルデバイス使用

1クール：3か月

※①「基本チェックリスト」：25問の簡単な質問に「はい」「いいえ」で答えることで、「運動機能」、「栄養」、「口腔機能」、「生活機能」、「認知機能」、「うつ」の7つの機能や症状についてチェックすることができます

②TUG（タイム・アップ・アンド・ゴーテスト）

③CS-30（30秒椅子立ち上がりテスト）

④開眼片足立ち

⑤身長・体重・握力

Mofit デバイス

HUR トレーニングマシン

レッドコード

まいにちやろにいえ

産官学との連携、プログラムの啓発を図るとともに、ICT活用によってデータを分析し、エビデンス(根拠)を蓄積していく！
 そうすることで、地域住民や対象者のニーズに合った介護予防を促進できる！



厚生労働省「e-ヘルスネット」

健康寿命の延伸と平均寿命との差の縮小が重要

我が国の高齢化が急速に進む中、国民一人ひとりの生活の質を維持し、社会保障制度を持続可能なものとするためには、健康寿命の延伸とともに平均寿命との差を縮小することが重要です。



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

4. 科学的介護情報システム(LIFE)フィードバックデータの活用

限られた人材の中で、「質の高いケア提供」と同時に「負担軽減を図る」ためには、テクノロジーや実際のケア提供から得られたデータ(LIFE関連帳票等)を活用し、ケアプランへの反映や実際のケア内容の改善など、ケアを最適化する取組が必要

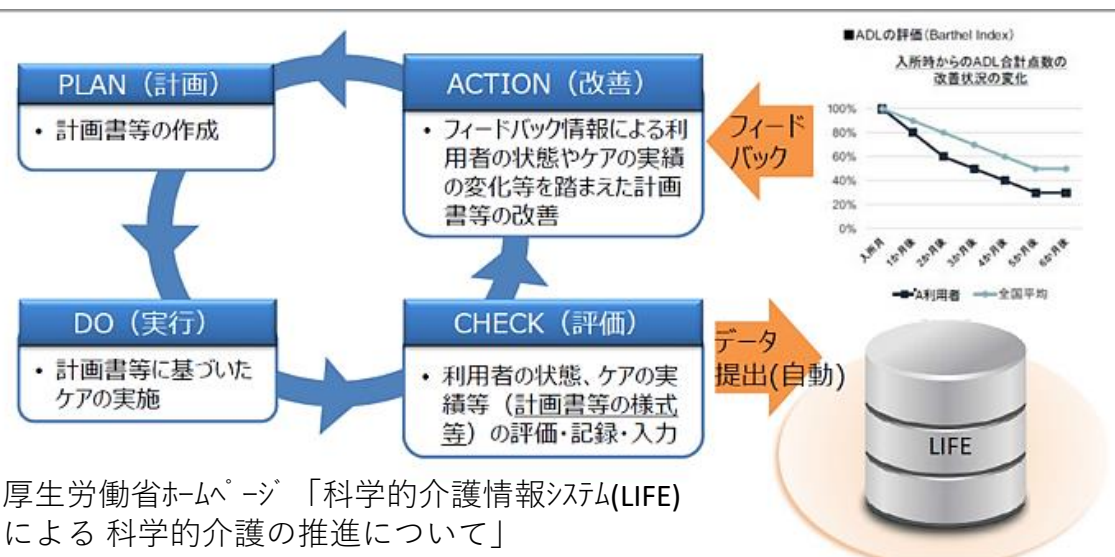


当ホームの取組事例(2例)
が掲載(事例08・10)

ケアの質の向上に向けた
科学的介護情報システム(LIFE)の
利活用に関する事例集

令和4年3月

株式会社三菱総合研究所「ケアの質の向上に向けた 科学的介護情報システム(LIFE)の利活用に関する事例集」(2022.3)



当ホームでは、LIFEの前身であるCHASE※に令和2年(2020年)5月より取り組み、これまで6度にわたってフィードバックデータを読み込み、活用してきた経緯がある！

※LIFEの前身、高齢者の状態やケアの内容等データ収集システム(Care, Health Status&Events)



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

4. 科学的介護情報システム(LIFE)フィードバックの活用



でも、LIFEは介護現場が提供したケアのヒビデンス(根拠)であるけれど、介護スタッフがLIFEを熟知し、運用できているかという、まだまだこれからの状況

※LIFEの導入プロセスには次のような段階があり、当会では既に④(2)及びネットワーク環境の活用までのノウハウがある。

- ①ネットワーク環境の整備
- ②デバイス(PC等)、介護記録ソフトの導入
職員への教育
- ③科学的介護推進体制加算の算定(データ入力・提出、
職員への教育)
LIFE関連加算の算定(各専門職の配置、職員への教育)
- ④フィードバック活用
 - ・活用例を参考に活用
 - ・計画書等の作成に活用

※①以降、構築したネットワーク環境を活かす(ICT・ネット等の機器導入、情報共有・情報連携の仕組みなど)

図表 13 フィードバック票の概要・活用目的・活用例

	事業所フィードバック票	利用者フィードバック票
概要	利用者のADLや栄養、口腔機能等に関する状態を事業所・施設単位で分析し、同様の介護保険サービスを提供する他事業所・施設との比較結果や過去からの変化を把握するための帳票です。	ADLや栄養、口腔機能等に関する状態について、自事業所・施設の利用者個別に分析し、要介護度等が同程度の他利用者との比較結果や過去からの変化を把握するための帳票です。
活用目的	自事業所・施設における特性や、利用者の特徴及びケアの特性を認識し、提供するケアの改善に活かすことが可能です。	各利用者のケアの目標や問題点、提供しているケアや状態を把握し、提供するケアによる改善状況を評価し、必要に応じて目標やケアの見直し等を行うことが可能です。
活用例	● 自事業所・施設の利用者像の把握 ● ケアの実施状況の把握 ● ケアの結果の把握 ● ケアの在り方の見直し ● 施設内の管理指標としての活用	● 利用者像や課題の把握 ● ケアの実施状況の把握 ● ケアの結果の把握 ● 利用者や家族への説明 ● 職員間での情報共有

(出典：株式会社三菱総合研究所ヘルスケア&ウェルネス本部「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム(LIFE)利活用の手引き」(ver.2022.06.24))

LIFEを介護スタッフが身に着けるべき次の1つと位置付け、介護現場主導でデータ活用ができるよう取り組む！



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

5. 情報発信

日常の発信や自組織内での情報共有だけでなく、
「社会課題に向けて取り組んでいる」ことを広く発信！



6. その他



- ・自宅利用型テレワーク(在宅勤務)♪
- ・モバイルワーク (利用者宅や移動中、移動の合間等でのオンラインによる業務)の拡張♪
- ・ケアプランデータ連携システム♪

LIFE以外に収集したデータを利活用♪



新たな認証等の取得や第三者評価の受審を推進♪

令和6年度(2024年度)介護保険制度改正・介護報酬改定への対応

※通所・訪問複合型サービスの創設、
居宅介護支援へのLIFE導入等
に向けた検討



計画項目を通じた研修受講や学び
の機会♪



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

介護サービスの質向上

と“同時に”

スタッフの負担軽減を図る

質の高いケア提供×利用者を満たしつつ、
お互いに楽な方法を創造していく！

